

らうんじ 2014・1・31～6・8

★+++++++++2014・06・08

「月刊文風」5月号を発刊しました

わが国は「人生90年時代」（「高齢社会対策大綱」から）を迎えているというのに、高齢者の多くはなお「人生65年時代」の余生を生きています。3200万人に達した高齢者がこの意識を改革しないかぎり、「日本高齢社会」の形成は延滞しつづけます。世紀の潮流である「平和裏の高齢化」は、各国各地域に同様の「高齢者社会」をもたらしますが、「高齢社会」は独自の条件のもとで達成へと進みます。いま世界の関心は、わが国の「高齢社会」の動向に向けられています。

☆2020年・「第32回東京オリンピック」(The Games of the XXXII Olympiad)の開催にむけて組織委員会が設けられ、各界著名人170人の顧問会議メンバーが発表され、国民の関心は「若者の祭典」へと動こうとしています。それとともにわが国は、高齢化トップランナー(金メダル候補)として、20年に1度の「高齢化に関する世界会議」(World Assembly on Aging・1982年ウイーン・2002年マドリード)の第3回会議(2022年)の招致をおこない、老青ふたつの国際イベントを同時進行し成功させることが役割であるといえます。そうすることで「オリンピック」の賛同も得られるでしょう。

★住み慣れた地域での高齢期の生活を包括的に確保する「地域包括ケアシステム」が動き出そうとしています。中核になるのは「医療・介護一体化」による「包括ケアセンター」ですが、すべての高齢者が無病期を豊かにすごすために、新たな「モノ・居場所・しくみ」を創出する活動が同時になされる必要があります。全社協が主催した「生活支援サービス推進セミナー」(3・24)での原勝則・厚労省老健局長の説明と堀田カ・さわやか福祉財団理事長の講演は、そのことを熱く呼びかけています。みんながわが人生の安心のために理解すべき内容です。自治体ごとの支援事業の強化は「高齢社会」への基礎固めです。

☆先行するわが国の「高齢社会」に関する活動の「リソースセンター」をつくらうという呼びかけが、RISTEXセミナーで、秋山弘子領域総括からなされています。全国の活動の成果を集積し、支援し合い、アジアの高齢途上国の要請にも応えようというものです。(「編集月旦」より)

+++++++++2014・05・05

「月刊文風」4月号を発刊しました

★4年に1度の若者の祭典「オリンピック」の2020年・第32回(The Games of the XXXII Olympiad)の東京招致に成功しました。それとともにわが国は、高齢化トップランナー(金メダル候補)である日本高齢者の誇るべき国際主義の表現として、20年に1度の「高齢化に関する世界会議」(World Assembly on Aging・1982年ウイーン・2002年マドリード)の2022年・第3回の招致に務めて、ふたつの国際イベントを同時進行することが必要であるといえるでしょう。人材にも成果にも実績があるのですから。

☆首都・東京は、オリンピック開催の陰で年間5000人を超える「孤独死」がつづくような姿を来訪者の目にさらすようなことはあってはならないし、東京が負担なら、幕張メッセと成田国際空港とすぐれた「房総長寿社会憲章」(1992年制定・2022年は30周年)を持つ「千葉県」がいい。国際性をアピールするまたとないチャンスとなります。

★先行するわが国の高齢社会にかんする活動の「リソースセンター」をつくろうという呼びかけが、RISTEXのセミナー「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」で、秋山弘子領域総括からなされています。RISTEXの成果、内閣府の「環境未来都市構想」、小宮山宏・三菱総研理事長の「プラチナ構想ネットワーク」、柏市での「東京大学高齢社会総合研究機構」の成果をはじめ、全国の多くの地道な活動の成果を集積し、情報を提供し、支援し合い、アジアの高齢化途上国の要請にもこたえようというものです。

☆全社協が主催した「生活支援サービス推進セミナー」(3・24)での堀田力・さわやか福祉財団理事長の講演(「新地域支援構想会議の取り組みと新たな地域支援事業への考え方」)は再録いたします。地域活動の活性化をすすめる官学民構想の具現化は急務です。(編集月旦より)

+++++2014・03・31

「月刊文風」3月号を発刊しました

月内すれすれで「月刊文風3月号」を発刊しました。* [「文風」2014年3月号](#)

全社協での堀田力さわやか福祉財団理事長の講演3・24は掲載できました。* [全社協セミナー堀田講演](#)

◎新提案 2022年の「第3回 高齢化に関する世界会議」を日本に招致しよう ― 2020年の「TOKYO オリンピック」とともに― をかかげました。* [2022年に世界会議を](#)

+++++2014・03・26

民主党オープンフォーラムが再開

昨年(2013)の3月27日で途切れていた民主党オープンフォーラムが再開しました。「歴史から学ぶ政治」として注目してきたフォーラムです。座長の藤井裕久顧問から再開する由のあいさつがあり、三谷太一郎東大名誉教授が「第一次世界大戦後の東アジアにおける国際政治体制－冷戦後の世界を考える手掛かりとして－」という演題で話された。三谷講師は講演の冒頭で、「政治の任務は理念的には正義の実現であり、秩序をつくるというのが重要な任務。秩序は最低限の正義である」といわれて、国際政治秩序の多極化(アナーキー化)の現状を指摘し、政治家のなすべき重要な歴史的事業への参画を、静かに要請されていました。* [民主党オープンフォーラム a](#)

+++++2014・03・20

千葉県庁の健康福祉課によってきました。

千葉県には1992年制定のすばらしい内容の「房総長寿社会憲章」があります。30周年にあたる2022年の「高齢化にかんする世界会議」招致にむけて力をつくすよう要請してきました。

[2022年に世界会議を](#)

+++++2014・03・19

一宮町の「子ども子育て会議」に出てきました。

わたしのエイジング・イン・プレイスとしての町で、子どもたちが安全でのびのび育つために、高齢者がやってみせることはふたつ。ひとつは祖父母世代として、安全を見守り暮らしの知恵を伝えること。もうひとつは新たな高齢社会のために、「ものづくり、居場所づくり、しくみづくり」に務めている元気な姿を見せること。

+++++2014・03・17

一宮町の「大正・昭和の一宮ものがたり」を残す会のこと

わたしの探し当てた「エイジング・イン・プレイス」である千葉県長生郡一宮町の「特性ある地域の発展」のために、「大正・昭和の一宮ものがたり」を残す会 を有志を募ってははじめました。きょうはその企画案を「まちづくり推進課」に提出してきました。資料収集や聞き取り調査などをおこなう本会の活動は、それ自体が高齢者社会参加の実践です。

+++++2014・03・12

高連協談話室(3月・たまり場)に出ました。

3月12日(第二火曜日)の高連協談話室(「溜り場」)にて、以下のような課題につき談論がありました。

・「日本高齢社会」に関する国際発信について 横田安宏氏

「高齢化に関する世界会議」(World Assembly on Ageing)は、1982年ウイーン、2002年マドリード、次の2022年は日本の都市で？

2020年「オリンピック・パラリンピック」の開催だけでいいのか。

東京は、若者がさわいで背後で多数の「孤独死」がつづいている姿をみせられるのか。

・政治家の「高齢社会」に関する認識不足の1断面 尾崎美千生氏

細川護熙元首相が立候補した「都知事選」の争点にみる。

・高齢住民を養成する生涯学習施設(小学校区単位)の提案 梅原健次郎氏

60歳以上を対象にし、数年の学習期間で、個人の特性を活かしつつ地域活性化に資する知識と技術を習得する。地域参加をスムーズにするとともに生涯の“学友”を得る機会に。

・「(仮)地域支援コーディネータ構想」の実現にむけて 野島卓郎氏

さわやか福祉財団堀田理事長が活動の仕上げ(三つ目の時期)とする定年後の高齢者の社会参加。自治体内に「(仮)地域支援コーディネーター」を置いて新しいしくみをつくるもの。進行中であり、同財団の野島氏から実情を聞く。

・RISTEXの「17(15)採択プロジェクト」について は次回に

RISTEX(社会技術開発研究センター)がすすめる「研究開発領域」としての「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」(平成22~27年事業)で15プロジェクトが採択されて実施されている。それぞれ3年の“社会実験”を経て事後評価をうけて「プロトタイプ」として提示され、一般のニーズに応じることになる。同時進行の活動を集約する拠点としての「リソースセンター構想」も議論されている。この件は当事者である岡本憲之氏から次回にうかがうことに。

・その他もろもろ までは時間切れで未着。

+++++2014・03・07

RISTEXの成果報告シンポジウムに出ました。

RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

3・7 成果報告シンポジウム

平成22年度採択の4プロジェクトにつて、

- ① 「新たな高齢者の健康特性に配慮した生活指標の開発」
鈴木隆雄(独立行政法人国立長寿医療研究センター研究所長)
 - ② 「在宅医療を推進する地域診断標準ツールの開発」
大田秀樹(医療法人アスミス理事長)
 - ③ 「ICTを活用した生活支援型コミュニティづくり」
小川晃子(岩手県立大学社会福祉学部教授)
 - ④ 「セカンドライフの就労モデル開発研究」
辻哲夫(東京大学高齢社会総合研究機構特任教授)
- が報告。「丈風3月号」で特集予定です。

+++++2014・02・27
「丈風 2月号」を発刊しました。

目次

◎新情報

「原発ゼロ社会」と「平和な長寿社会」がわれわれの誇りに

東京都知事選で細川護熙候補に緊急提案 [都知事選に緊急提案](#)

◎情報

安倍首相の所信表明・施政方針演説には「高齢者参加」がない [安倍総理所信・施政演説](#)

「靖国参拝」の安倍論理 は国際的には通用しない [安倍論理は通用しない](#)

◎「歴史から学ぶ」政治

「戦争の記憶を伝える」藤井裕久民主党顧問に聞く4 [藤井顧問に聞く4](#)

◎新情報

「高齢社会検定事業」について2 記者説明会から [高齢社会検定試験と問題例 a](#)
検定試験問題と解答例

◎新情報

RISTEX「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」2・11 シンポジウム(上)
特別講演・小宮山宏三菱総研理事長 「リソースセンター」構想 [RISTEX](#)

◎団体情報

さわやか福祉財団交流総会フォーラム2・18から [さわやか福祉財団交流総会](#)
講演・堀田力理事長 災害支援地域報告 特別トーク「新しい地域支え合いの仕組み」

◎対策大綱

「高齢社会対策大綱」(2012年9月)が改訂されて1年5カ月 [対策大綱全 2012・09](#)

「人生65年時代」から「人生90年時代」への意識変革と社会参加

◎新論考

『 丈人力のススメ「人生90年時代」をこう生きる 』『[人生90年時代](#)』全

一過性の「アベノミクス」後を支えるのは高齢者による「成長+成熟社会」

第1章 新時代 第2章 世相 第3章 家族 第4章 モノ・職場 第5章 和風回帰
第6章 高齢期・居場所 第7章 高齢者 ひとりの住民・国際人として 第8章
「人生90年時代」をこう生きる

+++++2014・02・11

RISTEX 平成25年度

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

第3回領域シンポジウム 基調講演

「日本「再創造」－活力ある長寿社会へのイノベーション－」

小宮山宏 [RISTEX](#)

日本企業を覆う飽和的需要に、「プラチナ産業」で対応すべき時であると説く。
17プロジェクトと「リソースセンター構想」は3月号に。

+++++2014・02・10

「細川都知事」誕生せず

2月9日(日)の東京都知事選。8日が20年ぶりの大雪、9日に雪を踏んで投票にいった有権者は46・14%、前回の62・60%を大幅に下回った。16人が立候補し、「殿ご乱心」と陰口をたたかれるのを承知で細川護熙元首相が立った。細川さんは小泉元首相の「原発ゼロ」の支援を受けて、両首相は寒風にさらされながら街頭に立ち、日本の将来像を掲げて訴えた。勝手連として多くの文化人が個別に支持したが、本稿もシニア・ジャーナリスト勝手連として、都民が安心して暮らせる首都であってほしいとの願いから別添のような緊急提案を届けた。

細川候補の勝利には、2020年の「オリンピック・パラリンピック」とともに、2019年の「国際高齢者年20年」記念イベント、と2022年の第三回「高齢化に関する世界会議」(1982年ウイーン、2002年マドリッド)というふたつの高齢社会にかんする“東京招致”にも、そのリーダーとして実現をめざしてほしかったからである。

オリンピック開催都市として、各区で500人を越える「孤独死」がつづくようなまちであってはならない。わが国は世界最速で高齢化が進んでいる。首都東京はその対策を成功例として世界に示すべき役割をもつからである。

+++++2014・02・03

都知事選候補、細川護熙事務所ゆき。

東京都知事選にあたって

緊急提案

「原発ゼロ社会」と「平和な長寿社会」をめざそう！

—これが今回の都知事選の国際的、歴史的使命

[都知事選に緊急提案](#) pdf(「丈風」2月号掲載)を

宮下さんに手渡す。

あと内閣府で高齢社会担当の宮本悦子参事官にあう。

+++++2014・01・31

「月刊丈風」2014年1月号を発刊しました

web「月刊丈風」1月号です。月内ぎりぎりでの公開になりました。

堀田(力)・秋山(弘子)さんの趣意が伝わることを願っています。

1月27日の「高連協新年集会」での樋口(恵子)代表の年頭挨拶は高齢活動の指針を示しています。

各地各界の敬愛する高齢者のみなさんに呼びかけています。

◎「アベノミクス」の恩恵は高齢者にはとどかない。

◎安倍政権下では格差がひろがって高齢者への敬意が薄れていく。

◎2014年は「団塊の世代(700万人)」がすべて高齢者の仲間入りをし、

4人にひとり・3200万人に達した高齢者(65歳以上)が

・生活圏で新たな「モノ・居場所・しくみ」をつくり存在感を示すこと。

・地域・平和・民主主義のもとで「長寿社会(平和の証)」の達成につとめること。

・国防軍ではなく国民運動として地域を愛し国を守る姿を示すこと。

それなら隣国から非難を受けるどころか敬意を受けることになるでしょう。